

カリキュラム

機構施設名：千葉職業能力開発促進センター

実施機関名：株式会社日本コンサルタントグループ

B. 組織マネジメント	組織力強化	061職場のリーダーに求められる統率力の向上
-------------	-------	------------------------

コースのねらい	現場の生産性を向上するために必要となる各種経営組織や形態に対応できる管理機能や職位に応じた組織を統率するための能力を理解し、職場のチームワークを牽引できる能力を習得する。
---------	---

講義内容	「基本項目」	「主な内容」	訓練時間 (H)
講義内容	1 組織の管理	(1)組織の特徴と実行管理【演習あり】 経営と組織、マネジメントの基本を学ぶ。経営の目的と、経営活動を支える組織構造の特徴を理解するとともに、自社の経営理念やビジョンを再確認し、自らの役割とのつながりを意識する。 【演習】自社の経営理念、ビジョンの確認、共有	1.0
	2 職場の生産性と統率力	(1)組織で活かせる自身の強み【演習あり】 アイスブレイクと自己紹介を兼ね、カードツール演習を通じて、業務で活かせる自身の強み(行動特性)を整理する。あわせて、強みが発揮された場面を振り返り、どのような行動が周囲や成果に影響していたかを言語化する。グループ対話を通じて強みの理解を深め、職場での組織貢献や改善提案につながる『自分の持ち味』として明確にする。 【演習】自己理解カード演習 (2)リーダーシップとは【演習あり】 マネジメントとリーダーシップに関する基本を学ぶ。 世の中や組織が変化していくことに伴い、自身が組織から求められる役割がどのように変化しているかに気づく。多様な人材が属する組織においては、人々を牽引するだけでなくサポートするリーダーシップが必要であることを知る。あわせて、部下への動機付けへの働きかけについても確認する。 【演習】自分らしいリーダーシップスタイルの探索 (3)若手従業員との関係性構築と教育育成【演習あり】 これからの組織を担う若手人材の戦力化について学ぶ。 人材不足の世の中において、組織が経営活動を継続し、収益を確保し続けるためには若手人材の早期戦力化が必要不可欠である。一方で、若年層の仕事に対する意識は変化しており、従来と同様の教育指導では実効性が高まりにくくなっている。 近年の若年層の意識変化について学ぶとともに、モチベーション向上と早期の育成、定着に必要な施策を検討する。 【演習】若手従業員への仕事の任せ方ワーク	2.5
	3 職場の情報伝達	(1)組織におけるコミュニケーション【演習あり】 ティーチング、コーチング、アサーティブコミュニケーションなど、基本的なコミュニケーション手法の知識を身につける。円滑な人間関係と信頼関係を構築しながら、適切なマネジメントを行うためのスキルを習得する。 【演習】アサーティブコミュニケーションの基礎 (2)部下指導の実践【演習】 ケース事例に基づき、ロールプレイを通じて対話や面談の実践演習を行う。部下の状況を把握し、課題の抽出から解決までのプロセスを確認する。また、目標設定面談のフレームを紹介し、面談時の動機づけ理論の活用法や効果的なフィードバックの手法について理解を深める。 【演習】目標設定面談ロールプレイ	2.5
	演習	オープンコースの特性を活かし、受講者同士の交流を重視します。演習を通じて、企業ごとの社風やコミュニケーションの違いを踏まえた多様な視点への理解を促します。 ・自社の経営理念、ビジョンの確認、共有 ・自己理解カード演習 ・自分らしいリーダーシップスタイルの探索 ・若手従業員への仕事の任せ方ワーク ・アサーティブコミュニケーションの基礎 ・目標設定面談ロールプレイ	3.5
合計時間			6.0